

日本の知見共有セミナー

明治維新时期日本の人材育成政策－日本の発展への意義と影響－

梅田大使 開会挨拶

- ・ マイ・ヴァン・チン ベトナム共産党中央委員，中央組織委員会副委員長
 - ・ 北岡伸一 JICA 理事長，
 - ・ 会場にお越しの皆様，オンライン会議システムで参加の皆様，
- 本セミナー開催にあたり，日本政府を代表し，一言ご挨拶申し上げます。
- 今年2018年は，日越外交関係樹立45周年であり，また，日本においては，「明治維新150周年」を迎えています。この記念すべき年に「中央組織委員会」とともに本セミナーを共催できることを大変光栄に思います。セミナー実現のためにご尽力いただいた中央組織委員会，JICAの関係者の方々に御礼申し上げます。また，北岡理事長におかれては，御多忙の中，日本からハノイにお越しいただき心から感謝申し上げます。
- まず始めに，ベトナムの改革努力に対する日本の基本姿勢について申し上げます。現在，ベトナムは，政治面でのドイモイを実現すべく，「6つの重要任務」の1つとして，「簡素で効果的な政治システムの構築，汚職・浪費・

官僚主義撲滅の推進」に取り組んでおられます。

- 2016年12月、ファム・ミン・チン党中央組織委員長は、訪日の機会に、安倍総理に対し、行政改革への知見提供及び人材育成への支援を要請されました。それに応えて、2017年6月、フック首相訪日時に、安倍総理は、800人以上の党幹部への研修機会提供等を通じて、ベトナムの行政構造改革及び指導者育成を支援することを約束しました。
- 行政組織を改革し、その機能を高めるためには、組織構造や規則の改革と共に、組織の一人一人の「人材育成」が重要です。言わば、これらは「車の両輪」です。このような考えに基づき、日本政府は、ベトナムの行政改革にむけた真摯な取組を「人材育成」と「知見の提供」という形で、側面的に支援しています。
- 「人材育成」については、共産党及び政府の幹部育成を念頭に、修士課程の受入れ人数を今年から60名とし、9月に日本に向け出発されました。博士課程の枠も今年新たに設け、今年度から7名が日本に留学します。また、毎年約100名の幹部候補生に訪日研修の機会を提供することとしており、本年10月に第1陣が訪日予定です。

- 「知見の提供」については、昨年来、職業倫理、行政改革、地方自治、国有企業の民営化等に関し、日本から専門家をベトナムに招聘し、セミナー形式で日本の経験（成功例、失敗例）と教訓を提供しています。本年3月に開催された「稲盛哲学セミナー」もその一例です。
- 今般、中央組織委員会から、自国の文化と調和させながら西欧の新しい知見を取り入れて近代化を達成した明治維新时期日本の政策、とりわけ、教育・訓練・人材活用分野の政策を研究し、現在のベトナムにおける公務員改革・行政改革に活かしたいとの要請をいただきました。どなたにお願いするのが最適か悩みましたが、本日、北岡JICA理事長を講師としてお迎えできたことは、大変幸運と考えています。
- 北岡理事長は、日本政治外交史の最も優れた研究者の一人であると同時に、東京大学、政策研究大学、国際大学などで「教育者」としても豊富な経験を有しておられます。また、NYの国連の場で大使としての実務経験もされています。さらに、歴代首相のブレーンとして様々な助言・考え方をインプットされてきました。2015年10月、JICA理事長に就任され、「人づくり」を積極的に主導しておられます。セミナーのテーマに最も適した講演

者をお招きすることができ、大変嬉しく思います。今回のセミナーをベトナムにおける人材育成の参考として活かしていただけることを心から祈っています。

- 最後に、皆様の御健勝、ベトナムにおける改革の着実な進展、日越関係の一層の緊密化を祈念し、私の挨拶とさせていただきます。ありがとうございました。（了）